

Title	肝炎・肝硬変・肝ガン
Author(s)	古江, 尚
Citation	癌と人. 2000, 27, p. 7-9
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23770
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

肝炎・肝硬変・肝ガン

古江 尚*

・日本の肝ガン

わが国の原発性肝ガンの死亡者数はその後もどんどん増え続けてきております。例えば、現在手に入る一番新しい数字ですが、平成9年度の1年間の肝ガンの死亡数は、男性が2万2357人、女性が9422人、合わせて3万2359人で、全ガン死亡数の12%近くを占めております。死亡数からみると、肝ガンは胃ガンや肺ガンに次いで3番目に多いガンです。それに、肝ガンは今でも非常に治り難いガンの一つで、全体的な治癒率は5%前後にすぎないと推定されます。従って、1年間に発症する肝ガンの患者数は4万人に近いのでしょう。肝ガンはわが国の他に、中国（都市部、郡部）、台湾、その他の東南アジアでも多いのに対して、カナダ、米国、イギリス、ドイツ、北欧、スリランカ、オーストラリアなどでは大変少ないガンです。

・肝ガンの原因

わが国の肝ガンの85%は肝硬変を母地にして発生します。肝硬変はわが国ではごくありふれた病気で、患者数は現在でも50~100万人はいると考えられます。肝硬変の原因疾患は多様ですが、B型ウイルス肝炎、C型ウイルス肝炎、それとお酒の飲み過ぎです。そして、これもまた最近の数字ですが、わが国の肝硬変の原因は、C型ウイルス肝炎が60%、B型ウイルス肝炎が20%、アルコール性が10%、残りの10%を特殊な型のものが占めております。しかし、アルコール性の肝硬変はあまり肝ガンに発展することはありません。例えば、フランスはワインの大生産国で、従って肝硬変は多いのですが、肝ガンはそれほど多くはありません。アルコールは、

ガン原性はある程度低いと考えられます。ただ、アルコールはウイルス肝炎の害を増強します。B型、C型のウイルス肝炎の人が酒を飲みすぎると、肝硬変、あるいはさらに肝ガンへの進展が早くなるし、頻度も高いといわれております。いずれにしても、わが国では肝ガンの原因の多くの部分をウイルス肝炎、特にC型が占めていることとなります。

・肝炎ウイルス

ウイルスは、例えば、インフルエンザ・ウイルスなどのように、細菌よりもずっと小さい生物で、動物や植物はもちろん、人間にもさまざまな病気をおこします。肝炎をおこすウイルスも沢山あります。しかし、その中で特に肝に住みついて肝炎をおこすものを、肝炎ウイルスと呼びます。現在、A、B、C、D、E、(G)、(TT)型が知られています。括弧をつけたものは、普通のウイルスか、肝だけをターゲットにしているものか、なお判然としておりません。もっとも、この中でわが国で広く拡まっているのは、A、B、Cの3型です。A型ウイルスによる肝炎、すなわちA型肝炎は経口感染で、食物を介して拡まります。ときに劇症化することはあっても、慢性化することはありません。また、2度とかかることもありません。これに対して、B、C型はともに血液を介して伝います。このうちB型肝炎は近年、予防対策が進んで、重要な感染経路である母子感染対策が採られるようになった結果、慢性化する患者が減りました。お産のときに、産道で感染するもので、生まれたばかりの、免疫力がまだ弱いときに感染すると、治らないで、慢性化します。

* 帝京大学医学部名誉教授 (財)大阪癌研究会一般学術研究助成選考委員

一方、成人になってからの感染では、治って、慢性化することはありません。しかし、C型肝炎は今なお、大きな問題です。C型肝炎も血液を介して伝えます。しかし、輸血歴のある人は半分です。やはり輸血の他にも、他の医療行為、針差し事故、入れ墨、麻薬注射、性行為などが関係しているのでしょう。症状は顕著でないことが多いのですが、血液でしらべてみると、肝障害が進行しているのが明らかです。しかも、これといった治療法がありません。この頃ではインターフェロンの注射が用いられますが、これが効くタイプは全体の30%にすぎません。それにインターフェロンは、発熱、だるい、食欲不振、その他、多彩な副作用があります。高価ですし、毎日、あるいは週に3回、注射に通うのは面倒でもあります。こうして、C型の慢性肝炎が治り切らないで、やがて、20年、30年のうちには、高い頻度で肝硬変、あるいはさらに肝ガンへと進展します。現在、わが国のC型肝炎ウイルス抗体陽性者数は230万人と推定されますし、その85%がウイルスのキャリアです。つまり、日本人の全人口を含めて、60人に1人がC型肝炎の感染源になりうるし、肝硬変の強力な予備軍でもあります。

・肝炎ウイルスによるガン化

ウイルスの本態はDNA、またはRNAで、ともに核酸から成り立っています。DNAもRNAもともに遺伝子を形成する、遺伝情報の担い手です。肝に住みついた肝炎ウイルスのDNA、またはRNAが正常肝細胞の核の遺伝子の中に忍びこんで、長い年月の間には、ガン化の引き金が引かれるのでしょう。最近、このガン化のメカニズムが分子レベルで解明されつつあります。

・症例

もう10年も前のことですが、30歳の若い男性が肝障害で入院してきました。よく調べてみると、慢性のC型肝炎です。原因は、多分数年前の交通事故のときに受けた輸血でしょう。今で

はこういうことは無くなりましたが、当時はよくこのような輸血による感染がありました。この男性は多分、これから一生、慢性肝炎に悩まされ、20年、30年のうちには、肝硬変、あるいはさらに肝ガンへと発展するかも知れません。交通事故の方はもうとっくに示談になっているし、加害者の行方すら分からないそうです。当時、私はこの若い男性のこれからの一生のことを思って、暗澹とした気持ちになったことをおぼえております。

・診断

肝ガンの一般的症状は上腹部が痛むとか、重苦しい、はる、そして食欲がない、やせるといった、不定なものが主です。胆道が塞がれると黄疸が出ることがあります。この点は膵ガンや胆道ガンと同じです。しかし、黄疸以外には、肝ガンに特徴的な症状はありません。それに、膵ガンなどもそうですが、肝ガンもそのように検査しないと、発見できません。超音波、CT、MRIといった特別の検査です。それと、肝ガンの場合、血中のアルファ・フェトプロテインという特定の蛋白質を測るのも役立ちます。だから、上腹部症状が続く場合には、胃だけでなく、肝や膵などもよく検査しなければいけません。それに、慢性肝炎や肝硬変では、定期的チェックは必須です。

・肝ガンの治療

手術です。しかし、大手術になります。肝臓は体の中で一番大きい、大事な働きをしている臓器です。だから、全部摘出することができません。もしそうでもしたら、人間は1日か2日で死んでしまいます。だから、肝ガンの手術では、どの線から切除するか、また切断面からの出血や、胆汁の洩れをどうして防ぐかといったことが問題になります。ただ、肝細胞は大変再生能力が大きいことは、手術の大きな手助けになります。この点は肝移植などにおいても同じです。

ガンが小さくて（径が3センチ以下）、数が

2～3個以下の場合には、無水アルコールをガン組織内に注入します。アルコールによってガンを固めてしまう方法で、対象を選べば、手術に匹敵する治療成績がえられます。もちろん、抗ガン剤の全身投与、局所投与、動脈内投与も行なわれます。ただ、肝ガンでは肝炎や肝硬変

を伴っており、肝機能が大きく低下していることが多いので、治療に難渋することが多いのが実状です。

ここでも、肝ガンの一番良い治療法は、ウイルス肝炎にかからないようにすることのようです。

ガン予防の十二か条

日常生活で実行してみましょう。

- ① いろどりの豊かな食卓にして、バランスのとれた栄養をとる。
- ② ワンパターンではありませんか。毎日、変化のある食生活を。
- ③ おいしい物も適量に、食べ過ぎは避け、脂肪をひかえめに。
- ④ 健康的に飲みましょう。お酒はほどほどに。
- ⑤ たばこを少なくする。新しく吸い始めることのないように。
- ⑥ 緑黄色野菜をたっぷり。食べ物から適量のビタミンと繊維質のものを多くとる。
- ⑦ 胃や食道をいたわって、塩辛いものは少なめに、あまり熱いものは冷ましてから。
- ⑧ 突然変異を引きおこします。焦げた部分は避ける。
- ⑨ 食べる前にチェックして、かびの生えたものに注意。
- ⑩ 太陽はいたずらものです。日光に当たり過ぎない。
- ⑪ いい汗流しましょう。適度にスポーツする。
- ⑫ 気分もさわやか。からだを清潔にする。

——国立がんセンター提唱——